

宗谷管内

りしりきりんししまい 利尻麒麟獅子舞

民俗芸能団体：利尻麒麟獅子舞う会（利尻町）

解説



明治 20 年代（1880 年代）、鳥取県から利尻町^{せんぼうし}仙法志長浜に渡ってきた人たちが、明治 41 年（1908 年）に鳥取に里帰りしたとき^{きりんししまい}麒麟獅子舞用具を利尻町に持ってきたことに始まる。大正時代初期に舞われたのを最

後に途絶えていたが、平成 16 年（2004 年）に長浜の若い人たちにより復活した。鳥取県東部や兵庫県北部に見られる麒麟獅子舞は、鳥取藩初代藩主池田光仲が江戸時代初期に東照宮を^{かんじょう}勧請し^{しんこう}盛大な神幸で舞われたのが始まりと言われている。

麒麟獅子舞は頭部に角を持つ面長の獅子頭を^{かや}蚊帳と呼ばれる胴衣に入った二人が操り、あやし役の^{しょうじょう}猩々を加えて太鼓・^{かね}鉦・^{はやし}笛の囃子にあわせて舞う。舞は^は厳粛に地を這うようにゆっくり頭をひねったり伸び上がったたりする。利尻麒麟獅子は遙か南の鳥取とのつながりを思いながら最北の島の強い風と荒れる海の動きを含み、島の山と海からの恵みと島人の無病息災を祈願して舞う。

例年、仙法志神社の宵宮祭にあたる 6 月 20 日に長浜神社境内で舞っている。

※勧請（かんじょう）～神仏の分霊をほかの場所に移し祀（まつ）ること。

※神幸（しんこう）～祭事や遷宮などのとき、神体はその鎮座する神社から他所へ赴くこと。

※猩々（しょうじょう）～古典書物に記された架空の動物。童子（どうじ）の面を赤く彩色したもの。